



保健センターだより

エイズを予防しよう

杏林大学医学部
公衆衛生教室 小風 暁

期待に胸を膨らませた新入学生を迎えてキャンパスも活気が溢れています。大学生活においては、学問の探求がその中心であることはいまでもないことですが、一般社会常識を身につけるといっても重要なことです。そこで今回のけんこう横丁ではエイズを取りあげ、エイズにつ

お知らせ

破傷風の予防接種について

屋外スポーツを行う人は、外傷を受けた時に破傷風感染をおこしやすいので、事前に破傷風の予防接種をうけておくことが望まれます。

予防接種の接種方法は、第1回目の後、約4週間後に第2回目を行い、更に追加免疫として6~12ヵ月後に第3回目を行います。この3回の接種を完了しておけば数年間は免疫が保たれます。

記

多摩キャンパス保健センター

申込み締切り	5月10日(月)
接種日時	
第1回目	5月31日(月) 13時30分~15時 6月2日(水) 13時30分~15時
第2回目	6月30日(水) 13時30分~15時 7月5日(月) 13時30分~15時

後楽園キャンパス 保健センター理工学部分室

申込み締切り	5月10日(月)
接種日時	
第1回目	6月1日(火) 14時~16時
第2回目	7月6日(火) 14時~16時

いて正しい知識を身につけてもらうことにしました。もうすでに知っているという人も知識の再確認のつもりで読んで下さい。

一体エイズとはどんな病気なのでしょうか？日本語では後天性免疫不全症候群と呼ばれ、文字どおり後天的に免疫の働きが不全となることによって引き起こされるさまざまな病気の総称をいいます。そしてこの病気はHIV（ヒトエイズウイルス）の感染によって起こります（わが国のHIV感染者の届出状況は平成10年2月末現在

4044人です）。HIVに感染しても直ちにエイズを発症するわけではありません。実際に症状としてはほとんどなにも現れてこないのです。

こうした無症候キャリアのまま続く期間は、6ヵ月から15年以上、平均10年といわれています。感染後数年経ってエイズ発症が近くなつてきますと、リンパ球の一つであるヘルパーT細胞の数が大幅に減少し、リンパ節腫脹の他、長期の下痢、発熱、体重減少、寝汗などの症状が見られ始めます。こういう状態が続くと体力が消耗し、日和見感染症が起こつ

てくるのです。日和見感染症とは普通の状態では感染の発症に至らない病原体が、HIVに感染した人のように免疫力が衰えることによって活性化され、引き起こされてくる感染症のことです。代表的なものにカリニ肺炎、カンジダ症、サイトメガロウイルス感染症などがあります。また、日和見感染症ではありませんが、悪性腫瘍の一種であるカポジ肉腫が発生することもあります。このようにエイズを発症した場合、いくつもの日和見感染症を併発して、次第に重症に陥り、その多くが3年以内に

死亡してしまいます。臨床研究の成果としてエイズの発症を遅らせることはできるようになりましたが、現在までのところHIV感染に対して完治をもたらす特效薬はありません。したがって現状ではHIVに感染すれば死は避けられないといえます。

つまりHIVに感染しないこと、すなわち予防がすべてなのです。皆さんご存知の通り、感染症の予防法の一つとしてワクチンの接種がありますが、HIVの変異速度が速いため有効なワクチンの開発は非常に難問といえます。いろいろな意味でHIVはかなり恐ろしい病原体といえますが、しかし弱点がないわけではありません。

一つはその感染経路がわかっていくこと、そしてもう一つはその感染力が非常に弱く、日常的なことでは感染しないことです。現在HIVの感染経路は①血液、②性的接触、③母子感染の三つであると説明されています。以前は輸血や血液製剤などの血液による感染が最も多かったのですが、最近では圧倒的に性的接触、それも異性間的接触によるものが増えています。若いときの性衝動は、

特に男性の場合抑え難いケースもあると思います。簡単に「セックスをしてはいけません」などというつもりはありませんが、HIV感染を防止するためには、思慮のない行動は避けなければなりません。特に不特定多数との性的接触はHIV感染のリスクを非常に高めますので、心したいものです。また、最近ではコンドームという言葉がHIVの予防に関していわれています。もともとコンドームは病気予防というより、望まない妊娠防止のために作られたものです。

このコンドームがHIV感染予防に役立つのは、極論すれば性的接触時における感染予防の唯一の方法といわれる理由は、コンドームが粘膜の接触をも防げるからであります。異性間的接触は、現象として男性と女性の生殖器の粘膜が接触し、擦れ合う行為でありますから、その際粘膜に目に見えない傷がつき、出血することもあり得るわけです。HIVは感染者の血液、精液、膣分泌液に多量に含まれているので、このときに感染する可能性があるわけです。これを防ぐためには現在までのとこ

るコンドームを正しく装着することしかないといえます。また、数例ではありますが、わが国でも麻薬注射の回し打ちによる感染者がいます。好奇心から、興味本位で薬物を静脈注射することはHIV感染予防の観点からも慎むべき行為です。

これまで述べてきたことがHIVに感染するハイリスク行為です。簡単に言い切ってしまうと、ハイリスク行為以外には感染しない行為であるということになります。HIV感染者が使った食器からは感染しませんが普通のキスも大丈夫です。HIV感染者の血液を吸った蚊に刺されても平気なのです。つまり、HIV感染者に対する偏見、差別は医学的な観点から不当なものなのです。

HIV感染の予防は簡単です。個人のレベルでできるものばかりです。社会のため、愛する人のため、そして何よりも自分自身のためハイリスク行為から遠ざかる必要があります。

外傷の応急処置・内科を主とした診療を行っていますが、病状によっては、専門医を紹介します。なお、診察料(初診料・再診料)は大学が負担し、検査料(健康保険料の半額)・薬剤料・処置料(実費)のみ徴収となります。



校舎	場所	診療時間
多摩校舎 TEL 0426-74-2760	2号館2階	(月)~(金) 10:00~11:30
		13:00~16:30
		17:30~19:20
		(土) 10:00~11:50
理工学部校舎 TEL 03-3817-1722	1号館1階 保健センター分室	(月)~(金) 10:00~11:30※
		13:00~18:50
		(土) 10:00~12:50※

※印の10:00~11:30は、看護婦による応急処置です。

保健センター

利用ガイド